常葉大学造形学部
紀要　第14号・2016
チラユ ポンワルット
Jirayu PONGVARUT
2015年11月19日 受理

日本ブックデザイン賞2015
THE JAPAN BOOK DESIGN AWARD 2015

キーワード：
日本ブックデザイン賞
ブックデザイン
ブックジャケット
グラフィックデザイン
秋山孝ポスター美術館長岡

日本ブックデザイン賞 2015 の一般公募に、自作品を出品をし、一般部門／カテゴリー A ブックジャケット（四六判）にて「銅の本賞」を受賞した。本学造形学部デジタル表現デザインコースの学生にも作品出品を促し、約 16 点の作品がエントリーした。審査の結果、学生 10 名の入選者を輩出された。

日本ブックデザイン賞 2015

日本ブックデザイン賞2015展
授賞式　9月12日（土）
会　期　2015年9月6日（日）～9月26日（土）
会　場　秋山孝ポスター美術館長岡（APM）

日本ブックデザイン賞2015の一般公募に、自作品を出品をし、一般部門／カテゴリーAブックジャケット（四六判）にて「銅の本賞」を受賞した。本学造形学部デジタル表現デザインコースの学生にも作品出品を促し、約16点の作品がエントリーした。審査の結果、学生10名の入選者を輩出された。

〈日本ブックデザイン賞について〉

ブックデザインはもともと装丁を意味し、本という知識の宝庫を長期間に渡って保存するために、その造本に関わる製本、本文や表紙の素材、箱、といった図書の設計をすることだった。現在では、一般書の出版は価格競争が激しくなった結果、出版社が中心となってコスト重視の出版に移行してきた。読者の心をとらえるために、本の内容をイラストレーションやタイポグラフィ、また、紙の素材や製本、印刷の技術などを用いて、どのようにブックデザインに反映するのか、デザイナーやイラストレーターにかかっている。つまり、ブックデザインとは、読者と本の「最初の扉」といえる。電子出版が進む一方、少部数、古来より用いられてきた紙の本作りも現代社会において価値あるものと位置づけている。本は知を保存し、後世に伝える機能を持っており、文字、図版、素材から設計される美しさをもっている。それらをつくるクリエイターの発見と育成を目的にして、日本ブックデザイン賞を設立された。

〈応募部門〉

一般部門と学生部門に大きく分けた。一般部門は専門的にブックデザインに従事している人から、これからこの仕事に携わろうとする人のための部門である。学生部門は、現在大学や学校で学んでいる未来のクリエイターをターゲットにしている。各カテゴリーごとに金の本賞、銀の本賞、銅の本賞の作品を選出し、さらにその中からグランプリ1点が選ばれる。

〈応募カテゴリー〉

- カテゴリーAブックジャケット（四六判）
- カテゴリーBブックジャケット（文庫判）
- カテゴリーCブックデザイン（私家版）

〈カテゴリーA、Bの課題図書〉

- 日本文学
  『吾輩は猫である』夏目漱石
  『武士の娘』杉本鉞子
- 海外文学
  『ハムレット』ウィリアム・シェイクスピア
  『老人と海』アーネスト・ヘミングウェイ
- 児童文学
  『不思議の国のアリス』ルイス・キャロル
  『注文の多い料理店』宮沢賢治

〈審査員〉

・秋山 孝
Takashi Akiyama
多摩美術大学 教授
秋山孝ポスター美術館長岡 館長
審査委員長

・大迫 修三
Nobumitsu Oseko
日本グラフィックデザイナー協会 事務局長

・太田 徹也
Tetsuya Ota
前 武蔵野美術大学、東京藝術大学 講師
グラフィックデザイナー

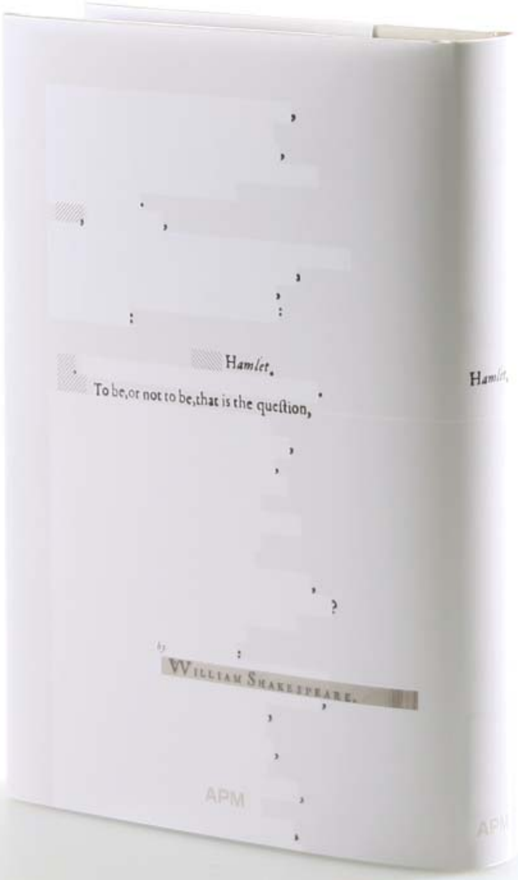
・かわい ひろゆき
Hiroyuki Kawai
神戸芸術工科大学 教授

・澤田 泰廣
Yasuhiro Sawada
多摩美術大学 教授
グラフィックデザイナー

・豊口 協
Kyo Toyoguchi
長岡造形大学 前理事長

・中垣 信夫
Nobuo Nakagaki
ミームデザイン学校代表

自作品



〈銅の本賞〉
『ハムレット』チラユ ポンワルット
一般部門／カテゴリーA　ブックジャケット（四六判）

『ハムレット』の四大独白の中で最も有名なのは第三幕第一場でなされるものだ。To be, or not to be で始まるこの独白は、この世の矛盾と向き合いながら、そこに縺れ合っている糸を解きほぐすことができずに、堂々巡りをする。

1611年初版、この台詞「To be, or not to be, that is the question」があるところをモチーフとし、レイアウトした。

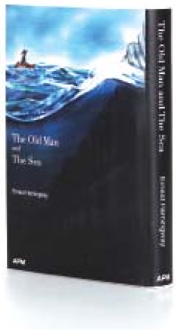
本学造形学部生入選作品

学生部門／カテゴリーA　ブックジャケット（四六判）

〈入選〉

『吾輩は猫である』　大石 明穂

モノクロでレトロな雰囲気を意識してデザインした。表紙の猫のシルエットに髭をつけて主人公の猫の学者のような性格を表現している。



〈入選〉

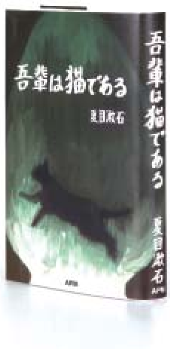
『老人と海』　大平 桃子

表はこれから始まる戦いの前をイメージし、裏では表では見えなかったカジキの存在と暗い雨雲で老人に訪れる激しい戦いを表現した。

〈入選〉

『老人と海』　広沢 晴菜

一見頼りなくすぐ切れてしまうような一本の釣り糸には、命をかけた繋がりが重なって見えた。右上からの白線でその繋がりをイメージし、陸と海の境界を表した。



〈入選〉

『吾輩は猫である』　松浦 里恵

表紙•裏表紙の絵は、読者が『我輩は猫である』読み終わって、裏表紙を見た瞬間にようやく表紙の意味を理解するように描いた。フォントも絵に合わせ手書きのものを作成した。

応募総計：626点

入賞作品と入選作品：242点

•一般部門	232点
カテゴリーAブックジャケット（四六判）	144点
カテゴリーBブックジャケット（文庫判）	60点
カテゴリーCブックデザイン（私家版）	28点
•学生部門	394点
カテゴリーAブックジャケット（四六判）	222点
カテゴリーBブックジャケット（文庫判）	151点
カテゴリーCブックデザイン（私家版）	21点

学生部門／カテゴリーB　ブックジャケット（文庫判）

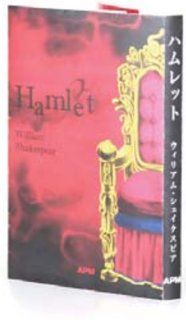
〈入選〉
『不思議の国のアリス』　片井　みさき
この文学はアリスが夢の中で奇妙な冒険をする話なので、表紙と裏表紙をそれぞれ現実の世界と夢の世界に分けてイラストを描いた。

〈入選〉
『注文の多い料理店』　高杉　晴香
注文の多い料理店のブックカバーでよく見かけるのは、怖い印象のものばかりだった。表紙詐欺というわけではないが、読者が山猫軒に来た紳士達に感情移入できるようなカバーを意識して作った。

〈入選〉
『注文の多い料理店』　千頭和　萌
鍵穴から猫が覗いている場面が印象的だったため、読者がその場面の登場人物と同じ気持ちになれるように、表紙に鍵穴を描き裏表紙には覗いている猫の目を描いた。

〈入選〉
『注文の多い料理店』　田上　晴菜
店側の注文に従っていく登場人物たちがまるでベルトコンベアーで流れていくように思えたので、淡々としたイメージに見えるよう描いた。

〈入選〉
『注文の多い料理店』　山川　岳
版画っぽいイラストのほうが本作の雰囲気に合うかなと思い、冒頭のシーンを版画風にした。あくまで児童文学なので子供でも親しみやすいイラストで描いた。



〈入選〉
『ハムレット』　山下　聖乃
ハムレットは最初の王様が死んでしまったことからストーリーが展開してると感じた。そこで表紙に玉座を描き、裏表紙にはそれが朽ちた様子を描いた。